

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

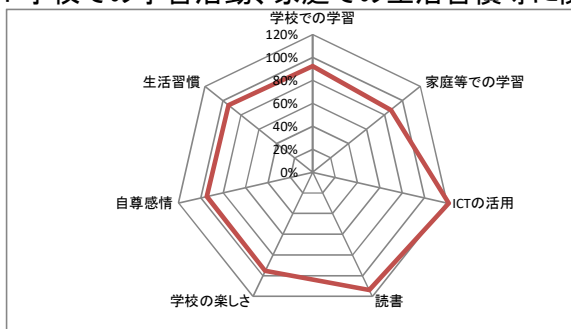
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(3)我が国の言語文化に関する事項、A話すこと・聞くことにおいて全国平均を上回っており、B書くこと、C読むことにおいて全国平均と同程度である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題。 ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの本質を捉える問題。	
	努力が必要な問題	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題。 ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領における各領域A数と計算、B図形、C変化と関係、Dデータの活用それぞれにおいて、全国平均正答率と同程度である。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題。 ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題。	
	努力が必要な問題	・図形を構成する要素に着目して、長方形とひし形の意味や性質、構成の仕方についての理解を問う問題。 ・二つの最小公倍数を求める問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領における「エネルギー」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域において、全国平均を上回っている。「粒子」を柱とする領域と「生命」を柱とする領域においては、全国平均と同程度である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で自分の考えをもち、その内容を記述する問題。 ・自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかを問う問題。	
	努力が必要な問題	・メスシリンダーという器具、その正しい使い方についての問題。 ・昆虫の体のつくりについての問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用については全国平均を大きく上回った。また、学習の中でICT機器を使うことが役に立つと思うとの回答も全国平均を上回った。本校におけるICT機器を使った個別最適な学びの実現の成果が表れていると考えられる。 ・読書に対する結果が全国平均を大きく上回った。地域ボランティアの読み聞かせの活動や、朝自習の読書の時間を確保することなどが成果につながったものと考えられる。 ・SNSや動画の視聴などの時間が全国平均を上回っているなど、家庭での学習習慣の定着に課題があると考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・基礎的な学習内容の定着を、朝自習や宿題などで図る。
- ・今後、友達と学び合う力をもっと高めるために、各教科での話し合い活動を積極的に行うなど協力的な学びを促進していく。
- ・家庭学習チャレンジハンドブックを活用できるようHPIに記載するなど、引き続き啓発していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・基礎的な生活習慣の定着については、「北九州子どもを育てる10ヶ条」を活用し、学校だよりや各学年の通信などを通して、保護者との連携を継続していく。また、子どもたち自身にも道徳科や保健の学習などを通じて、日常的な指導を続けていく。